

ふじさわ・九条の会ニュース

No.55



発行人 ふじさわ・九条の会 事務局長 吉塚晴夫 090-7949-9854

HP(ホームページ) <http://hws2.spaaqs.ne.jp/fujisawa9jo/>

検索「ふじさわ・九条の会」でも開けます。

日本国憲法 第二章 戦争の放棄

第九条 ①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

安倍政権の嘘に騙されるな

公文書の改竄隠蔽、統計調査数字の捏造、安倍政権は嘘の上に成立している。厚労省の毎月勤労統計の嘘とごまかしがまたしても暴露された。入管法案審議で、外国人技能実習生失踪に関する法務省の捏造隠蔽が明らかになった。その前には「働かせ方」法審議の過程で、裁量労働制に関する嘘の数字が浮上した。障害者雇用数の水増し、そして森友・加計問題は言わずもがなである。法案提出の根拠である統計データ等が全く信用ならない。虚偽捏造が繰り返されている。安倍によって国会が無意味化されている。既に独裁政治が目の前で行われているのだ。

臨時国会で憲法審査会に安倍が改憲案を提案できなかったことを、自分たちの抵抗が功を奏したという意見があるが、違う。このままでは9条残って死屍累々となりかねない。悪法を通されただけ私たちは更に追い詰められたのである。

水道法、漁業法、入管法(外国人労働導入)、これら私たちの生活を脅かす法案が、まともな審議無しで次々と採決されていった。水道法は私たちの生命の水を水メジャーに売り渡すものである。世界を見れば多くの国、都市で民営化をやめて公営に戻している。その中で今更民営化に乗り出すのは、将しく利権故である。漁業権も同様で、漁協中心に営々と家族漁業を守り育ててきた戦後の歴史を葬り去

るものである。既に農業では農協の解体、家族農業の破壊が進捗しつつあるのと歩を一にしている。規制改革会議と称する竹中平蔵の一声で決まってしまう、利権のシステム整備の法改正である。遺伝子組み換え食品が無差別に入ってくる。種子法は廃止され日本の食料主権、食糧安保は崩壊に向かっている。安倍は米国製の武器に金を蕩尽するが、最も重要な食糧安保は端から投げ捨てているのだ。

「我が国を取り巻く安全保障環境は一段と厳しさを増している。」というのは安倍と菅の馬鹿の一つ覚えのセリフだが、本来友好国である韓国と見境なく対立を煽っている。戦争をしようというのか。日本は全土海岸線に最大の危険物、原発を配置している。自衛隊は原発を防御しない。経団連会長の中西は「原発はどんどん再稼働し、新增設もやるべきだ。」と発言した。イギリスでの原発が頓挫したので、日本で儲けを確保しようということだ。入管法は外国人を単なる労働力として移入しようとするものである。「我々は労働力を導入した積もりだったが、やって来たのは人間だった。」ということなのだが、日本のように社員を安く使い捨て、また在留外国人にヘイトスピーチを撒き散らし、それを規制もしない企業国家に、外国人労働者の人権の擁護など出来るはずもない。安倍の日本は止め処なく劣化していく。
(吉塚晴夫)



2018年12月8日 辻堂駅
ふじさわ・不戦のちかい

江の島に軍艦はいらない

昨年12月23日、江の島湘南港に停泊中の自衛艦「えのしま」を見学してきた。「えのしま」は横須賀を母港とする海上自衛隊の掃海艇で、毎年、年の瀬に湘南港へやってきて一般公開されている。掃海艇とは、ご存じの通り戦争海域で機雷を除去することを任務とする軍艦だ。

私たち「湘南のなぎさを守る藤沢市民の会」は毎年、これをウォッチングと称して見学に行っている。なぜそんなことをするのか？といえ、掃海艇つまり軍艦が平和都市宣言した藤沢市の海にやってきて、市民にその威容を見せつけるというのは、どうにも合点がいかないからである。監視の意味で視察している。

(写真)

今年、当日は曇り時々小雨という天気であったが、会員7人が集まった。江の島大橋



は観光客であふれ歩きにくかった。大橋の江の島側に近づくと、5、6人の男性が紺色制服姿で集まり、なにやら通行人に呼び掛けている。橋はオリンピックに向けて工事中なのでこの制服集団は警備員かと思ったが違った。自衛隊員だった。チラシを配っている。私ももらった。「掃海艇が栈橋に泊っているから見学して行ってくださ

い」と観光客を誘導する内容だ。そこから栈橋まで300メートルくらいだろうか。要所要所に隊員が立っている。迷彩色に日の丸をつけた帽子をかぶっている女性が我々を追い越していった。家族か恋人か。栈橋にはテントが三張り張られ、自衛隊グッズを売ったり、VRゴーグルを掛けさせて自衛隊の活動を見せている。隊員募集の勧誘もしている。艦内に入る前に受け付けで手荷物を開けさせられチェックを受ける。イベントの説明をする隊員が数多く立っている。その隊員の一人に質問してみた。Q「このイベントに何人参加しているのですか」。A「50人ほどです」。Q「例年より派手にやっていますね」。A「ええ、許可が出ましたので」。艦内に入ると機器が所狭しと並んでいる。見学者は多く、肩が触れ合うほどだ。艦上から甲板を見下ろすと、小学生と思われる子どもたちに隊員が話しかけている(写真)。子どもたち



は10人ほどでヨットクラブに所属しているという。何を思って指導者が連れてくるのか分からないが、子どもたちは単に軍艦はカッコいいと思うだろう。戦争に行く船とは思わないに違いない。

(「湘南のなぎさを守る藤沢市民の会」本阿弥)

「辺野古の海を土砂で埋めるな」

2012年の第二次安倍政権成立後の憲法、民意無視の強行政治の数々。翁長知事の遺志をついで玉城知事が誕生しても、沖縄の民意無視の政治は続いています。高江の森をつぶしても飽きたらず、今、辺野古の海に土砂投入を始めました。茶色く濁った辺野古の海の写真を朝日新聞で見たとき、胸がつぶれる思いがしました。辺野古の埋め立てを止めるための署名は国内だけでなく、ハワイ在住の沖縄系4世の作曲家ロブ・カジワラさんが始めたホワイトハウスへの嘆願署名はタレントのローラさんたちの呼びかけもあり、20万筆を越えました。

私たちが藤沢駅南口に立って「安倍9条改憲NO！」



の300万署名と並んで「STOP! HENOKO 辺野古に土砂投入反対！本土から辺野古埋め立て用の土砂搬出計画を止めよう」の請願署名を呼び掛けています。埋め立てに必要な土砂約2100万 m^3 のうち、約75%は奄美・九州・瀬戸内海など県外7か所から持ち出されることになっています。埋めたての土砂といっしょにアルゼンチンアリ、ハイイロゴケグモ、オオキンケイギクなど特定外来生物が沖縄に運ばれ、生態系を壊すのだそうです。昨年末31日のスタンディングのとき、辺野古カンパに1万円をカンパ箱に入れてくださった方があり、1月7日には1000円をカンパしてくださった方がいました。その11,000円をふじさわ・九条の会からとして「沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック」宛てに送金しました。また「止めよう！辺野古埋め立て」国会包囲行動委員会は、国地方係争処理委員会委員長に「地方自治を守る機関として中立・公正な審理を行い、国土交通相による沖縄県の埋め立て承認撤回の執行停止の取り消しを求める」要請書の団体署名を1月末締切りで呼びかけました。

本土にいて沖縄に行けない私たちにできることは「辺野古の海を土砂で埋めるな」というプラカードを掲げて署名を集めることとカンパしかありませんが、どんなに現実が暗くても未来はまだきていません。沖縄の未来は私たちの未来であり、本土の私たちの頑張りが大事です。

(松本和美)

インタビュー 「六会・九条の会」事務長 上浦孝彦さん

吉塚: 12年間に涉り、75回発行してきたニュース「ねがい」の発行と、毎年10月市民センターで続けてきたパネル展示を中止するのは何故ですか。

上浦: 「ねがい」最終号に書きましたように、それまで3~4人で関わっていたのが、高齢化・移住・就職によりホボ私一人で取りまざるを得ない状況になっていました。そのような状況の中で、私の目の悪化があって中止せざるを得なくなったのです。後を継ぐ人を育成してこなかったことを否定できません。自分でやってしまった方が早いという思いもありました。そんな状況が続きましたが、特に批判はありませんでしたし、ニュース「ねがい」への反応もなかったということかもしれません。執行部として、組織運営を間違えてしまったと思っています。将来を見越して若い世代に働きかけ、加入してもらい、取り組みを継承していこうという思いが希薄だったのです。

全国の9条の会も、関連平和反戦団体も高齢化しているし、六会が直面している状況は何処でも見られるのではないか。9条の会自体でも、世代交代はなかなか難しいのではと…、残った者で今までやってきたことを続けられるかどうかです。

吉塚: 上浦さんは何故こういう活動を？

上浦: サラリーマン時に労働組合に関わったし、六会周辺にこころざしを同じくする仲間がいて、「一緒に地域の九条の会を立ち上げよう！」と誘われたからかな。吉塚さんはどういう動機で？

吉塚: 以前から憲法記念日とかイラク戦争反対とかの行動に一人で参加していました。3・11の大震災の時、日本に54もの原発があることを知って本当に愕然とし責任を感じました。その年の3月末に定年退職して暇があったことから、東電に抗議文を送ったり、神奈川選出の衆参議員を議員会館、地元事務所に訪ねて、自分で書いた要請文を手渡すことを一人で始めたのです。その内反原連の金曜日国会官邸前行動が始まり、再就職の会社帰りに毎週参加してスピーチしたり。地元でも何かやるべきだと思い、たまたまサンパールで9条の会が、何かの抗議をしていたのにおずおずと参加したのが始まりですかね。

上浦、吉塚: 9条の会も他の平和団体も高齢化している。会員個々はあまり危機感がないかも知れないが、事務局は今後いつまでやれるのかと、強い危機感をもっている。そのギャップが問題です。 (2019.1.16)



地域の中でつながりを大切にしたニュースづくり

明治地域9条の会 宮本

私たちの地域では、2ヶ月に1回、地域の人、ものが登場するように心がけながら、ニュースを発行しています。紙面は、次の5つです。①平和のバトン(戦争体験者の記録)②人欄(趣味、特技の紹介)③地域散策(地域内の名所紹介)④新婦人小組の作品紹介⑤取り組み紹介。



平和のバトンは17人が登場しました。体験者の掘り起こしが上手いくのかの心配がありましたが、3000万署名、対話活動の中で意識的にお聞きしていきました。「防空壕に入らなくて助かった」横浜での体験者は「何が幸いするかわからない」と語ってくれました。

人欄では16人を紹介しました。藤沢メダカの人、菊づくりで賞をもらった人、ハーモニーの全国大会で優勝した人、公園の花壇の世話は健康増進そのものと語ってくれた人。退職後囲碁を始めた人…。様々な人との繋がり視野が広がります。

地域散策も17ヶ所になりました。担当者が記事を書き、写真を撮ってくれます。絵手紙は、新婦人の素晴らしい作品が届きます。取り組み紹介は、腹話術公演や、映画会の感想、3000万署名での声、ふじさわ九条の会のつどい紹介などでした。

しろたにさんの腹話術公演は、子供達の参加もあり会場いっぱいの55人の参加でした。「子どもから大人まで同じ時間と場所とテーマ(ゴローちゃんが語る憲法九条)で笑いながら過ごせる一時でした。」と大好評でした。

許されない米国追従の軍事大国化

善行地域九条の会 松村芳美

今、安倍内閣は「戦争をしない」と決めた憲法九条に自衛隊を明記し、いつでも戦争ができるように憲法を改定しようとしています。お隣の南北朝鮮では話し合いで平和を手にしようとしています。日本は、朝鮮、中国への根強い敵視政策から抜け出せず、徴用工、慰安婦問題でも歴史を直視せずに非人道的な対処を押し通そうとしています。新聞、テレビ等マスコミも多くは政府の意向を付度し、隠蔽、はぐらかしに同調して真実を正しく伝えるべきジャーナリズム精神が衰退しているのが事実です。その間に政府は米国製の高価な武器を装備した自衛隊を他国を攻撃できる軍隊にし、辺野古をはじめ、沖縄、鹿児島、諸島にも基地建設を進めています。戦後七十年以上経つ今、日米安保条約の範囲はさらに広げられ、今年度の軍事予算は五兆二五七四億円まで増大しています。

故翁長沖縄県知事は全国知事会議で、一九六〇年以来改定されていない日米地位協定の抜本的見直しを提起し、全会一致で採択されました。せめて独・伊並みの変更が望まれますが、未だほとんどそのままです。日米地位協定により米軍は空港・港湾・道路を優先使用。将校・軍属は外国人登録・旅券不要で出入国自由。公務中の事件・事故の裁判権は米国。現場は米軍管理で日本警察は立入禁止。等々、加えて多額の思いやり予算。まさに米国の植民地です。一方年金・健保・教育費などの国民負担は増すばかり。その上消費税10%に値上げとなれば当然生活費の支出は増し、一般庶民の生活に未来への希望はありません。

私たちは「憲法を守りましょう」というだけではなく、安倍内閣の政治の実態や日米関係の問題をより多くの人に知らせ、語り合い、行動する必要を痛感します。私たちの会は創立5周年を迎えますが、どのようにして語りの場を地域に広げ深めていくかが今年の具体的な課題です。

沖縄報告 土砂投入はまだ全体の4%、県民投票が勝負！

投票反対は5市！賛成の有権者25%越えが勝利か。

【沖縄2・24県民投票】安倍＆菅政権は土砂投入で県民投票反対市を激励することが狙いでした。一番、議会情勢が良い宮古島市から始め5市が決定しました。

辺野古工事で安倍政権は陸揚げ桟橋や道路を作れない。土砂投入の4%のメドもつきません。3月にさらに大きな所への土砂投入の見通しはないです！追い詰められているのは安倍＆菅政権です(宮崎議員の議会対策＝裏戦略が表に出ました)。

一番大きな、大浦湾での工事は一步もできません。マヨネーズ土壌では許可された工法では工事ができないのです。安倍総裁の任期は3年ですが、デニー知事は4年の任期です。知事の権限があれば、大浦湾側での工事変更はできないのです！

辺野古工事の土砂は、県条例で県外からの持ち込みは大変厳しいです。県内だけではまったくたりません。奄美や瀬戸内海からの土砂がないとできないのです。

情報拡散のコーナー(その1)

今後しばらくこのコーナーでは、私たちの情報交換をより密にし、活動の一層の活性化に役立てるために、ツールや使い方を知り・活かした、(ふじさわ・九条の会)らしい試みを紹介して、私たちからの受・発信力を高めるレポートを、毎号シリーズ化することにします。

まずは昨年、9月・11月の二回、近隣の外部講師：細川良夫氏をお招きし、(SNS勉強会)を試みました。SNS (Social Networking Service) とは、



インターネットを介して人間関係を構築できるスマホ・パソコン用の Web サービスの総称です。
・一回目は、各人の共通認識を持つために、世の中に溢れている情報源について説明していただきました。そもそもSNSとは何か？メリットとリスク、それを始めるにはどうするか？などの基本の基を説明してもらいましたが、正直、参加者は？も無きにしもあらずとはいえ、入り口としては成功。

・二回目は、私たちが持っている、ML(メーリングリスト)メールの使い方、SNSのメリットとリスクなど、更に知識を深める試みをやりました。これもまだ入り口で、とっつきにくさもあってまだまだこれからです。MLメールは、ガラケー特有の限界もあって、加えて発信の仕方やプライバシーの確保なども大事で宿題です。

・12月の世話人会でも、まずは既存のMLメールとふじさわ・九条の会HP(ホームページ)の活用・定着が第一歩というのが、中間結論です。TW(ツイッター)、FB(フェイスブック)なども次のテーマで大事。以降、このニュースの毎号で、情報拡散の活発化について、私たちなりのミニ活動を発信してゆきます。請うご期待。(高須賀建郎)

私は2・15から4～5日沖縄に行き、辺野古県民投票を成功させたいです！

沖縄の選挙は4・21沖縄3区、デニー後継の勝利を！オール沖縄の候補屋良さんと会いカンパを渡してきました。

7月の参院選挙は21日で確定しました！糸数議員が辞退して高良教授が出ますが条件が必要です。

衆参同時選挙になることが決まり(1・4日経&2～3日後の毎日で数字も。1・6日本農業新聞で改憲戦略の変更を指摘されています＝通常国会は国民投票法だけ、改憲論議は無理せず。私の見方は衆院選の協力で公明党と取引をしたと見ます。)衆議院選挙の勝利、そして安倍＆菅政権の打倒を目指しましょう！

私は投信を売って資金を作り、更に支援を続けます。

(久保 博夫)

〈お知らせ〉

ふじさわ・九条の会 14周年記念のつどい

日時 4月29日(月・休日)
午後1時半～午後4時
会場 藤沢市民会館小ホール
講演 「戦争をする国に向かう
安倍政権を止める為に」(仮)
講師 望月衣塑子さん
(東京新聞記者)
参加費 500円(当日700円)
☆ミニコンサート(予定)
☆終了後パレードを
予定しています。



ご参加ください

9の日行動

2月9日(土)、3月9日(土)、4月9日(火)
午後1時半～午後2時半
藤沢駅南口1階

抗議の火を絶やさないスタンディング

毎週 月曜日 正午～午後1時
藤沢駅南口2階デッキ

「アベ政治を許さない」行動

2月3日(日)、3月3日(日) 午後1時～午後2時
藤沢駅南口2階

事務局会 2月18日(月)・3月18日(月) 18:30
世話人会 2月28日(木) 15:30・3月28日(木) 18:30